

和歌山支局

〒640-8227 和歌山市西汀丁38
レグルスピル2階
TEL 073(431)1411
FAX 073(433)0650
wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】

橋本	0736(32)0063	海南	073(482)0675
湯浅	0737(62)2870	御串	0738(22)2511
田辺	0739(43)3636	新宮	0735(62)0788
	0735(28)1751		

【広告問い合わせ】

073(423)9291

【購読問い合わせ】

0120-468012

和歌山

地域面3ページ→

体外受精や顕微授精など日々進化を続ける不妊治療。若者の未婚、晩婚化が進む中で、高齢での出産も可能となっている。しかし医療現場では技術が進歩しても限界はあるという。安全な妊娠や分娩のために気を付けることを、うつのみやレディースクリニック（和歌山市）の宇都宮智子院長に聞いた。

うつのみやレディースクリニック院長に聞く

■高度化する治療

若年世代のライフスタイルの多様化に伴い、晩婚化と分娩年齢の高齢化が指摘されています。それと共に不妊治療を受ける患者数も増加の一途をたどっています。

体外受精や顕微授精といった高度な不妊治療の出現により、一昔前なら妊娠が不可能だったカップルでも赤ちゃんと授かることが可能になりました。

■30代後半からは

しかし生殖医療の技術向上を持ってしてても、女性の高齢化による卵子の質の低下に対する有効な治療はなく、妊娠を希望する時期にはすでに治療が困難な方を多くみられます。男性の精子と違い、

卵子は新しく作られません。胎児の時から持つてある卵子が排卵されます。排卵できずに失われる卵子が圧倒的に多いため、女性の年齢と共に徐々に減少します。

30代後半から卵子の

減少スピードが加速します。

■男性も禁煙節酒

高齢妊娠の場合には子の染色体異常や妊娠高血圧症候群などの妊娠合併症の危険性が高まり、異常分娩の割合も増加します。

高齢化で卵子の質低下

女性の場合、①年1回は婦人科検診（子宮頸がん・卵巣がん検診）を受ける。20～30代の子宮頸がんが増加しています。卵巣腫瘍としてください。

コンドームを使う。将来の不妊原因となる性感染症を予防できます

⑤加齢は生殖の大敵ということを意識する。パートナーと子どもも含めた人生設計を考え、なるべく早く妊娠してください。

健やかやま

や子宮筋腫なども分かれます②基礎体温表を付ける。排卵の有無がチェックできます。

男女とも気を付けるべきなのは、①たばこをやめる。喫煙は卵巣の寿命を縮め、異常精子が増加します②飲酒はほどほどに。過度になると卵巣の寿命を縮め、精子の運動率が低下します③適正体重を保つ。太り過ぎ、やせ過ぎは排卵障害につながります。生活習慣病による男性性機能障害も問題です④避妊には